3/14（土）

神の祝福を子孫に

創世記四八章

父祖アブラハムとイサクがその御前に歩んだ神よ 今日に至るまで生涯を通して私の牧者であられた神よ あらゆる災いから私を贖われた御使いよ この子どもたちを祝福してください。（15、16）

父ヤコブの病が重いことを聞いたヨセフは、忙しい公務を抜け出し、二人の息子を伴って見舞いに訪れます。ヤコブは手を置いて二人の孫に祝福の祈りを献げるに当たり、三重の神の名をもって祈ります。それが今日の聖句です。この二番目の呼びかけにあるように、多くの苦しみや悲しみを経験した生涯を閉じるにあたり、ヤコブの心を捉えていたのは、神は「今日に至るまで生涯を通して私の牧者であられた」ということでした。羊飼いなる主が導き続けてくださったからこそ、ヤコブは神の民としての生涯を全うすることが出来たのです。この神の祝福を子孫たちに与えます。「神はお前たちと共にいてくださり」（21）と。このように、羊飼いである神が共にいてくださることこそ、私たちにとって最高の祝福です。主なる神は、これからの生涯もずっと私たちの羊飼いでいてくださるのです。